



ぶどうの枝

2022年
冬号

「必要な糧を今日与えてください（主の祈り）」

千葉キリスト教会 牧師 小濱 守宏

今年の千葉・茨城地区合同礼拝のテーマは、健康伝道でした。テーマ聖句は、主の祈りの一部であるマタイ6章11節「わたしたちに必要な糧を今日与えてください。」です。必要な糧は、物質的な糧と霊的な糧の二つの種類の糧を意味します。合同礼拝では霊的な糧であるイエス・キリストをお伝えさせて頂きました。

主の祈りには、特別な力があります。千葉教会の牧師は、火曜日と木曜日にシャロームの朝礼拝を担当します。礼拝の終わりに職員の皆さんと主の祈りを唱え、各々の持ち場へと向かいます。

その時の主の祈りは、私にとっていつも特別に感じます。私は介護という働きは、自分の心の状態が重要だと思っています。憂鬱な気持ちであったり、イライラした思いに支配されていたら、質の高いケアは望めません。隣人を思う心、伝えさせて頂きますという思いが求められる職種だからです。シャローム職員の為を思って「必要な糧を今日も与えたまえ」と祈る時、その日一日キリストのお支えという糧が十分に注がれますようにという思いが深まります。

何故、シャロームの朝礼拝の主の祈りが私にとって特別なものとなったかと言いますと、シャローム職員の方々のために祈らせてもらえると、不思議に自分の必要な糧が与えられる事に気づき、主の祈りの一節の真理を知る事が出来たからです。

それは、必要な糧を求める時、主の祈りは「私たちに」というように主語が複数形

で祈ります。この真理は、自分の為だけでなく他人のためにも「必要な糧」を祈り求める時、自分自身も他人からの助けが与えられるという神様のご配慮です。

エフェソの信徒への手紙1章18節には「心の目を開いてくださるように。そして、神の招きによってどのような希望が

与えられているか、聖なる者たちの受け継ぐものがどれほど豊かな栄光に輝いているか悟らせてくださるように」と書いてあります。「イエス様」という霊的な糧を頂くと心の目が開かれて希望が与えられ、神様のお支えを体験します。そして、1章3節の「わたしたちの主イエス・キリストの父である神は、ほめたたえられますように。神は、わたしたちをキリストにおいて、天のあらゆる霊的な祝福で満たしてくださいました」をおぼえ、神様をたたえたいのです。

必要な糧が与えられると、最終的に主の栄光をたたえたいというエネルギーが心のそこから湧き上がってきます。心から「私たちの必要な糧を今日も与えたまえ」と祈りたいと思います。



小濱 守宏 牧師

安息日礼拝で説教を
される小濱牧師

祈りの行進に参加して

千葉キリスト教会 信徒伝道部 砂長谷 和子

毎朝、デボーションやお祈りのとき、天を仰いで感謝することで、わたしたちは平安、希望に満たされ、命を与え最期まで支えて下さる創造主の神様が、今なお生きて働いておられることを強く確信するのではないのでしょうか。

10月最後の安息日の説教者は、「もし最初の確信を、最後までしっかりと持ち続けるならば、わたしたちはキリストにあずかる者となるのである。」(ヘブル人への手紙3:14)という聖句を、証を交えて、取り次いで下さいました。とても励まされアーメンでした。関心のある方は教会のホームページのライブ配信ページをどうぞ。この説教者は来春に牧会者として立たれる方で橋本美絵さんです。牧会をされている牧師先生はじめ、これからその任に着く方々のために祈りたいと心から思いました。

さて、今年の春に、「これは良い本なので皆様是非読んでください」と小濱牧師から、毎週のようにお勧めがありました。わたしも買い求めました。教会が負担して下さることで定価よりも安く求めることができました。未だの方は求めることができます。手元において読み返す素晴らしい本です。

その後、わたしたちの教会は、安息日礼拝後、祈りの行進祈禱会としてこの本を読み合うことになりました。その本は「イエスの御名によって」(一とりなしの祈りの驚くべきカーロン・M・クルーゼ著)です。

この本から、神様のみことば(聖書のなかの約束)には驚くべき約束があることを改めて教えられました。神様をもっと信頼し確信をもってお祈りをしてきたならば、神様のお恵みをもっともって受けることができ、また大きな業を見ることができたのでは、と思うようになり、その罪を悔いております。その本の29ページには、聖書の中の驚くべき約束が記されております。有名な聖句で誰

もが知っておられる、マタイの7章7節8節とルカ11章9節～11節の「求めなさい。そうすれば与えられる・・・だれでも求める者は受ける」です。信じて疑わないで求めているのでしょうか。わたしたちの祈りには必ず答えがあるという点で、イエスさまは誰でも(信仰により、神の意志に従って)求めれば、受けると言っておられます。

安息日礼拝直後の祈りの行進祈禱会では、参加された方が順番にその本を輪読します。その後読み物からの新しい発見や意見を話し合い、お祈りして欲しい事を出し合い、お祈りをおさげします。

そして、今日は地図のこの一角で行進しようとの伝道チームの呼びかけに、一人ひとりトラクトを持参し、祈りをもって行進に出かけます。

トラクトをポスティングするお宅の前で「このトラクトを手にとり読んでいただけますように。〇〇宅が神様のお守り、祝福に満たされますように。家族が仲良く健康でありますように、困ることのないように、助けてください。願わくは神様の愛にふれる機会をお与えください」と祈ります。

短時間の行進の経験が、普段の信仰生活において歩くときも、すれ違う方のために祈れるようになりました。

終わりに私の好きな聖句です。

「そして、この御国の福音は、すべての民に対してあかしするために、全世界に宣べ伝えられるであろう。そしてそれから最後がくるのである。」
(マタイによる福音書24章14節 口語訳)



「ブレーメン」誕生！！

千葉キリスト教会 児童・青年伝道部 水野 綾子

コロナ禍にあって、児童・青年伝道部の活動は、以前の様に活発にできないながらも、毎週の安息日学校を、LINEやリモートを使って聖書の学びを続けています。その中で、初心者でも弾きやすいウクレレをみんなで作ってみたいと、小濱先生からの提案により、夏から練習を始めました。コードを3つ覚えれば演奏できる「主われを愛す」を課題曲として練習を始めました。ウクレレが得意な青年に、優しく指導してもらい、少しずつ弾くことができる様になりました。たった3つのだけのコードですが、年齢を重ねた大人は、指の切り替えが中々できず、苦戦しながら頑張っています。一方、青年達は課題曲以外の曲も練習しだして、覚えの速さ、順応性の高さに、本当に驚かされています。

そんな青年の中の一人、永島優太くんが先日、安息日学校の開校のお祈りと、証を初めてやってくれました。その証の中で、小濱先生と聖書研究で学んだ聖句が、昔チャレンジクッキングの工作で作った“御言葉しおり”の聖句とぴったり一緒だった事に驚いた、と言う話をしてくれました。しおりを作った時には何気なく選んだ御言葉だったかもしれませんが、後になって励ましの言葉として自分に返って来たのです。神様のなさる事は本当に素晴らしいなと思いました。その御言葉は次の通りです。

「求めなさい。そうすれば与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。」

(ルカによる福音書11章9節)

証を終えて、「前に立ったら頭が真っ白になっちゃった！言いたい事が全然話せなかった…」と言っていた優太くんですが、

まず祈りと証を引き受けてくれた、その事に、私は感動しました。とても大きな一歩を踏み出してくれたと思います。

そして、このグループ「ブレーメン」の名前を考えてくれたのも、優太くんです。パッと頭に浮かんだのが、ブレーメンで迷いなく決めた様です。ブレーメンの音楽隊をモチーフに、様々な個性を持った一人一人が集まって、ギター、ウクレレを通して神様を共に讃美出来る様に…との意味合いを持っています。「ブレーメン」の案にメンバーの皆も、もちろん快諾で、グループの名前が決まりました！

生き生きと楽しそうに練習をする青年達の姿を見ると、本当に嬉しくなります。

「ブレーメン」の青年がこれから一人でも多く増えます様に、その青年一人一人が、御言葉や賛美を通して神様に会える様に、これからも祈りながら活動を行きたいです。

令和4年10月22日（土）の安息日学校
永島優太君のお祈りと証の後
「ブレーメン」の皆さんによる
賛美歌「主われを愛す」の演奏です



最近の聖句から「今、思うこと。」

千葉キリスト教会 篠田 正子

コロサイ人への手紙1章19～23、27節

(口語訳)

「1:19神は、御旨によって、御子のうちにすべての満ちみちた徳を宿らせ、1:20そして、その十字架の血によって平和をつくり、万物、すなわち、地にあるもの、天にあるものを、ことごとく、彼によってご自分と和解させて下さったのである。1:21あなたがたも、かつては悪い行いをして神から離れ、心の中で神に敵対していた。1:22しかし今では、御子はその肉のからだにより、その死をとおして、あなたがたを神と和解させ、あなたがたを聖なる、傷のない、責められるところのない者として、みまえに立たせて下さったのである。1:23ただし、あなたがたは、ゆるぐことがなく、しっかりと信仰にふみとどまり、すでに聞いている福音の望みから移り行くことのないようにすべきである。この福音は、天の下にあるすべての造られたものに対して宣べ伝えられたものであって、それにこのパウロが奉仕しているのである。

1:27神は彼らに、異邦人の受くべきこの奥義が、いかに栄光に富んだものであるかを、知らせようとされたのである。この奥義は、あなたがたのうちにいますキリストであり、栄光の望みである。」

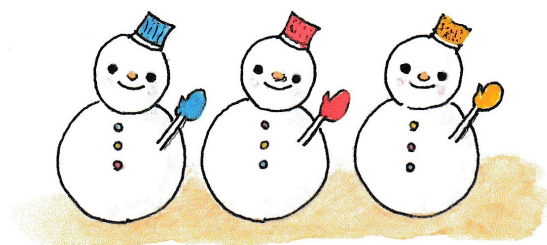
今年も色々な苦しみや悲しみが有りました。その中で安息日毎の礼拝、御言葉を中

心とした交わり、賛美、祈禱会、聖書研究、セミナー、特に今年はコロナ禍の中でネット配信、メディアを通して、これらの一つ一つが各教会を超えての活動に発展し、世界を繋ぐ輪の中へと導かれ、本当にイエス様を慕う霊の家族に支えられて来たことに心から感謝します。この流れの中で今までおぼろげに気付いていた事を主は愛と哀れみをもって、はっきりと具体的に示して下さいました。

いかに今まで物事を「主よ、主よ」と熱心に唱えながら自分の力で何とかしようとして来た事、自己中心で家族に対応して来たこと、人間関係の中で常に陥っていた精神的欠陥など、そんな中、今回この聖句に出会い暗唱したくて何度も唱えている内に新たな希望と力を頂き、御言葉の力に感動しています。

改めてイエス様の血潮を無駄にしたくないとの思いは強くなり、この御言葉通りしっかりと信仰に踏みとどまる為には、常にイエス様に聞き日々聖霊を求めて、一步一步主によって真に悔い改めさせて頂き、預言通りいよいよ終わりが近い今、しっかりと約束の御言葉を蓄えて皆さんと共に再臨に備えたいと思います。

「主よ、来たりませ！」



「主は羊飼い、主は私を正しい道に導かれる」

千葉キリスト教会 大竹 えり子

六月に近い五月のある日、Yさん宅に、教会を長く休んでいる方への葉書を書く奉仕があり、Kさんと共に行きました。私が、目が見えにくくなった話をすると、Yさんは

「知人が白内障の手術をしてとても良く見えるようになった」と話してくれました。

その手術をした医院は、私が住む四街道市の新設の眼科医だと聞いたので、私は早速行ってみて、設備の良さと数をこなしている自信のありそうな医師だと思い、最初相談のつもりで行きましたが、検査を続けているうちに7月6日に手術となり、左目の手術を受けました。10分以内の手術でした。次の日にはよく見えるようになって喜びました。

ところが手術から三日目の土曜日に違和感があり、午前に診察に行ったところ、代理の先生にそのまま様子を見るようにと言われ、帰ってきました。しかし午後になると違和感を超えて、ボヤっとしか見えなくなり、不安になりました。そこで、医院に電話をしましたが誰も出ず、止むを得ず他の眼科を探した処、志津のA眼科に繋がり、そこで診てもらいました。そこのB先生は「これは重篤な状態です」と言い、提携の東邦大の先生を呼んで下さり、二人の先生から翌々日の月曜日に東邦大に行くように言われました。

月曜日になり東邦大に行き、M先生から「今日手術します。入院して下さい」と突然言われました。緊急手術の理由として「視力はなくなるか、戻っても一割か二割かもしれない状態です」と言われびっくりしました。その日の夜の8時頃、「屠られる羊」のような気持ちで手術室に向かいました。始まった手術は、「神様助けて」と声を出して言うてしまうほど、ガンガンと打たれるような痛みが続きました。全身の

力を込めて耐えました。長かった一時間でした。手術後は痛みもなく、見えなくなる不安を感じる余裕もなく、強い疲れを感じて眠りました。

次の日から、一日目、二日目、三日目と日を追うにつれ、私の眼はクリアに見えてきました。四街道の眼科の手術後直後の視力1.2と同じ視力が出て、五日目には退院できました。

このことで、私は二つのことを体験し、学びました。

一つ目は、神様が、あえて、私に試練を与えられたと。イエス様が十字架上で打たれた痛みをほんの少しだけ追体験させて頂いたと。試練とともに脱出の道を備えてくださったと。

二つ目は、老いに向かうにあたって、だんだん衰え、つらい体験もたくさん押し寄せてきても、神様のお守りとお支えで、耐えられると。

この二つの体験と学びから、その頃教科で学んでいた、次の聖句を思い浮かべました。

「主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない。主はわたしを青草の原に休ませ、憩いの水のほとりに伴い、魂を生き返らせてくださる。主は御名にふさわしく、わたしを正しい道に導かれる。」

(詩編23篇1節～3節)

最後に、このことで祈ってくださった小濱先生と教会の皆様に、心からの感謝を申し上げます。



第52回千葉県教会音楽祭に参加して

千葉キリスト教会 賛美アフタヌーン代表 浅川 千鶴子

「主にむかって新しき歌をうたえ。地の果てから主をほめたたえよ。海とその中に満ちるもの、海沿いの国々とそれに住む者とは 鳴りどよめ」（イザヤ42:10）。

み言葉を私たちの拠り所として、合同音楽祭に臨みました。

コロナで中断していた千葉県教会音楽祭が、今年は小規模でしたが、日本キリスト教団西千葉教会礼拝堂で、11月3日10時より教派を超えて6つの教会によって賛美を共に神様にお捧げする楽しい一時が与えられました。

礼拝説教のなかで「神様に受け入れられる讃美は、私たち一人ひとりがイエス様に向かって歌う真心からの捧げものであり、技術を競うものではありません。」と語られました。

私たちも、この言葉に感謝し、神様の恵みを受けて、今年は讃美アフタヌーンと青年グループのブレイメン（ウクレレ、ギター、ベース）のコラボで出演しました。

讃美アフタヌーンは、今年も創作讃美歌「実のならないいちじく」（磯部豊喜作詞、白鳥俊作曲）を歌いました。また、今年結成された青年グループブレイメンとのコラボで「主われを愛す」を共に賛美する一時が与えられました。

私たちの願いは、み言葉通りに「世の光」「地の塩」となって、外部の方たちとイエス様との愛の交流を持つことにあります。何年か交流を重ねていくうちに、SDA教会の存在さえ知らなかった方々が、心を開いて歓迎してくださるようになりました。他教会のご婦人が「とても素敵でした」と声をかけてくださいました。賛美の交わりに入れたことを、何よりの恵みと感

謝しています。

今年の開催日は、土曜日が第一候補に上がっていました。私たちは、安息日を大切に聖別していることを伝え、変更できないのであれば今年は辞退しようと神様に祈り神様にお委ねして練習を重ねてきました。神様が働いてくださいましたので11月3日の祭日に音楽祭が開かれることになりました。神様の導きに感謝します。また、私たちの願いを受け入れてくださった方々に感謝しています。

神様は一人ひとりに賜物を授けてくださいました。千葉教会は、賛美アフタヌーンとブレイメンの19名で参加することができました。

恵みを受けた方々が神様の恵みのもとに集う一時は、天国の先取りでありました。私たちは此れからも、天を目指し、愛し合い、練習を重ねていきたいと願っております。皆さまのお祈り宜しくお願いします。

令和4年11月3日
第52回千葉県教会音楽祭で
「実のならないいちじく」
を賛美する
賛美アフタヌーンの皆さん



「聖書について（その1）」

千葉キリスト教会 長老 渡邊 邦男

「聖書」は世界で最も売れている本と言われています。信者さんは勿論のこと、信仰をお持ちでない方も少しは読んだことがあるという方がおられるのではないのでしょうか。

では、その聖書を読んでいくうえでの留意点を、それも聖書を買ったばかりの初心者に向けて、示してみたいと思います。

そこで実際の聖書を開いてみましょう。初めのほうに目次があって、大きく旧約聖書と新約聖書に分けられています。

ご存じのように、旧約聖書はイエス・キリストの誕生前、紀元前の時代B.C(Before Christ)と表現されている時代背景を舞台として、主に中近東から北アフリカ地方で繰り広げられた人（ヘブル人＝ユダヤ人が多く登場）と神（創造主）とのやり取りが書かれています。

新約聖書はイエス・キリストの誕生からキリストの昇天とその後の宣教活動での書簡を中心として、紀元後A.D(Anno Domini)の1世紀の時代背景を舞台に書かれています。

「聖書」と呼ぶからには、この旧約聖書と新約聖書のどちらも極めて重要であり、新約聖書だけ、あるいは旧約聖書だけ、という扱いはキリスト教においてはありません。

旧約聖書は創世記に始まり、マラキ書で終わっています。

新約聖書はマタイによる福音書で始まり、ヨハネの黙示録で終わっています。

聖書の「創世記」を開いてみると、1或いは第一章という大きめの数字の後に、“一”或いは“1”又は“何も書いてない”、に続いて、「はじめに神は天と地を創造された。」とあり、続いて、“二”或いは“2”の後に、「地は形なく、むなしく、やみが淵の表にあり、神の霊が水のおもてをおおっていた。」と書かれています。

“第一章”と書かれているのは文字通りその書の第1章を現わしています。また、大きめの“1”も同じくその書の第1章を表していて、単純に章と

いう表現を省いているにすぎません。

そして、最初の1章に続いている数字は1章の1節を現わしています。聖書によっては、その章の1節だけ数字を省いているものもあります。その場合は、大きめの1に続いて、文章（ここでは一番目の「下線」の部分）が書かれています。その文章は、その書の第一章第一節に該当します。つまり、第一節だけ単純に数字を記載していないだけで「聖書」の中身（文章）には何ら関係はありません。そのような表現は出版するところの何かの都合によるものと理解してよいと考えます。

聖書の原型は、巻物形式で書かれており、この文章を書いているときに見ている聖書のような文章の分け方や、章や節などの付記は存在しません。これらは聖書全体の中でどの部分に書かれているかを分かりやすくするために、付記されたものです。

このように、その書の名前が書かれ、章や節が付記されている形式で聖書が書かれているのは、神の言葉がどこの場面で語られたものかが分かりやすく、聖書を通して、神が読者に伝えたいことが理解しやすくなるように工夫されているからです

ちなみに、一番目の「下線」の文章は、“旧約聖書の創世記第一章第一節”という表現をします。2番目の「下線」は、“創世記第一章第二節”となります。このようにこれらの付記によって、その文章が聖書のどこに所在するかが分かりやすくなるのです。

信仰をお持ちでない方にも創造主である神が、私たち人に語り伝えたい言葉が書かれた聖書に親しんでいただければ幸いです。



コロナの影響で十分な活動が出来ず残念です

ぶどうの枝2022冬号は2021冬号から1年ぶりの発行となります。コロナの流行が始まってから間もなく3年になります。この間、様々な変化がありました。新しく学べたこともありました。

この3年の間、皆様とは対面でお会い出来ず、様々な集会も中止となり、皆様には辛い思いをさせてしまいました。申し訳ありません。

コロナの感染状況は第8波の発生が予測される中、教会では今暫く、昼食の中止や午後の集会の原則取り止め等、万全の予防対策を継続してまいります。感染状況が早く収まり、活動を再開出来る日の到来を皆様と共に待ち望みます。宜しくお願い申し上げます。

定期集会（開催場所：千葉キリスト教会 集会室、礼拝堂）

◇ 聖書セミナー オンラインで行っています。

☆日時：毎月、毎週水曜日。午前10時～11時30分。

☆第一、第三水曜日は「イエスのみ名によって」を研究します。

☆第二、第四水曜日は「出エジプト記」を研究します。

☆第一、第三水曜日講師：千葉キリスト教会 牧師 小濱 守宏

☆第二、第四水曜日講師：前千葉キリスト教会 牧師 磯部 豊喜

◇ 菜食料理教室 しばらくお休みです。

☆日時：毎月、第一月曜日に開催します。午前10時～13時。

◇ サンセット・バイブル・カフェ しばらくお休みです。

☆日時：奇数月の第四土曜日のタペ開店します。午後5時30分～7時30分。

◇ チャレンジクッキング しばらくお休みです。

☆日時：奇数月の第四日曜日。午後1時～3時。

☆対象：子供の皆様（小学生以下は保護者の御同伴をお願いします。）

◇ チャーチコンサート しばらくお休みです。

☆日時：4、6、10、12月の第4日曜日。開演午後2時。



安息日学校（毎週土曜日）

☆賛美礼拝：しばらく中止

☆聖書の学び：午前10：00～10：40

安息日礼拝（毎週土曜日）

☆千葉キリスト教会：午前11：00～12：00

☆シャローム若葉虹の家：午前9：30～10：10

祈祷会

☆毎週、火曜日夜午後6時及び水曜日朝午前10時から祈祷会をしております。

【編集後記】「ぶどうの枝」2022年冬号をお届けします。コロナの影響で残念ながら1年間休刊致しました。教会活動が再開し季刊発行できる日を待ち望みます。良き新年をお迎えください。

SDA千葉キリスト教会

〒264-0028

千葉市若葉区桜木5丁目15番1号

旧法務局前通り：3、4階 千葉キリスト教会

1、2階 シャローム若葉

電話：043(231)3620

FAX：043(231)1634

Email：sda-chiba@rio.odn.ne.jp

ホームページ：

sda-chiba.org



★発行責任者：

小濱守宏 牧師

★スタッフ：

酒井 闊 太田 博司

綿引 秀子